

文語日誌（平成二十七年五月二十五日）

小生の子供の時分には「汝の尊敬する人物は誰なりや」は大人より子供への定番の質問なりき。その質問に答ふるに我は、たとへば、野口英世、シュヴァイツァー等を擧ぐる友人多かりきと記憶す。

近年我が國に於きてはかくなる英雄崇拜熱、全く冷めたるが如くに見ゆ。むしろ彼ら的人格必ずしも圓滿ならざること、一般人の理解を超ゆと指摘する向きすら無きにしもあらず。

一方、戦前の修身・歴史教育にては、あるべき理想的人物像を生徒に具體的に活き活きと提示する方法、確乎としてありき。

昭和十一年非凡閣刊の「日本英雄傳」全十巻は、その路線にあるものにて、菊池寛監修の下、我が國歴史上の英雄一千人（青木昆陽、青木木米、青山胤通、明石元二郎、秋山眞之、秋山好古、芥川龍之介以下、皇族・女性は除く。）の傳記を分かり易く物語風に纏めたるものなり。通常の人名辭典にては味はふこと能はざる偉人の息遣ひを感じしむ。

「日本英雄傳發刊の辭 非凡閣加藤雄策」より

『古來日本民族の發展史上に大いなる足跡を残したる巨人一千人の傳記を編み、以て、諸英傑の魂に聽かんとする全國の諸賢に贈る』、『言ふまでもなく傳記はそれ自身歴史の具體的なる解説にてあり、同時に人生行路の照明燈なり。日本英雄傳はそれを兼ねたるのみならず、かの有名なるプルタークの英雄傳に比して優ると自負する所以のものは、武將のみならず政治經濟思想學術技、その他百般に亙る偉人天才を併せ録し得たることに、之に依て日本民族の記念塔を築き上げんとす。』

「青木木米」より

『山陽は木米を評して「吾輩天下の書にして讀まざるはなく、天下の事知らざるはない。然るに木米老人に至つては、吾輩の未だ讀まざる書を讀み、吾輩の知らざる事を知つてゐる。」と云ひし。』

「青山胤通」より

『博士と大隈侯の交遊は世間に有名なり。明治二十八年に大隈侯の母堂を診察したるが始まりにて、爾來侯の薨去の日まで、二十三年の長きに亙れり。或る時大隈侯昵近者に「青山博士は言ふことも氣分も立派なる政治家なり。嘗てある政治的計畫を相談に来たることがありしが、吾輩はその時、いまだ時機尙早と言ひて思ひ止まらせたり。油をかけなば、政治に轉ずるやも知れざりき。然し醫者として世界的に認められたる大家を、今更政界に誘ふやうに仕向くることは、國家の爲に大きな損失なり」と語りき。』

「日本英雄傳」の覆刻版（全二十巻、大きな活字の爲。）は小生にとりていはばバイブルともいふべき存在なりき。その「日本英雄傳」、最近遂に國會圖書館「近代デジタルライブラリー」に上架せられたるは誠に喜ばしく、無料にて閲覧可能なれば、是非一度お試しあれ。

<http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1222289>

（平成二十七年六月二十二日受附）